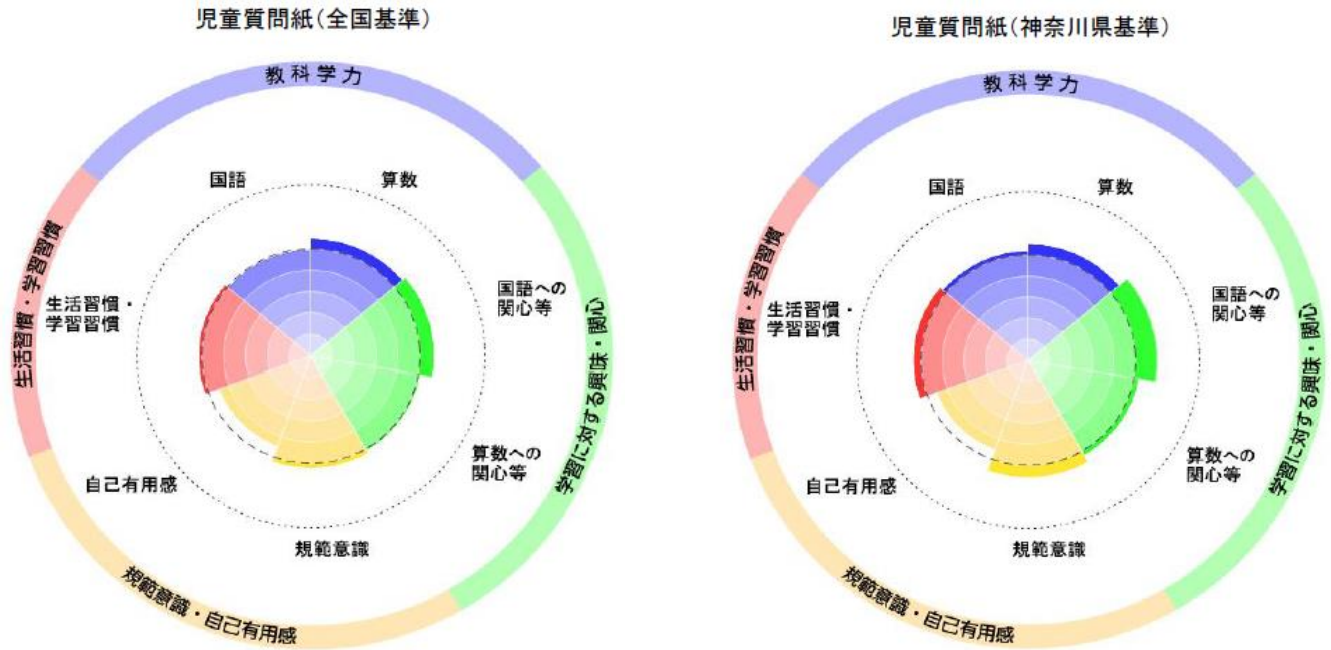


保護者様

横浜市立永田小学校  
校長 足立 渉

## 全国学力・学習状況調査 結果分析について

2023年4月に6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果と分析の内容をお知らせします。  
《結果チャート》



### 《教科別学習状況調査結果から》

小学校「平均正答率 (%)」

	国語	算数
本校	66	66
神奈川県	66	63
全国	67.2	62.5

#### 【国語】

本校の平均正答率は、全国・神奈川県の平均正答率とほぼ同じという結果となりました。正答数別分布グラフにて解析すると、全国平均正答数を上回って正答することができた児童は全体の49%程度となりました。

- 「話すこと・聞くこと」の正答率は66%で、神奈川県や全国の平均を下回りました。特に、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」という課題に対しては、正答率が県や国の平均を下回りました。
  - 「読むこと」の正答率は72%で、神奈川県や全国の平均を上回りました。特に「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」という課題がよくできていました。
  - 「書くこと」の正答率は、24%で、神奈川県や全国の平均を少し下回りました。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するという課題に対して苦手意識をもつ児童が多く見られました。
  - 「言語についての知識及び技能」では、情報の扱い方に関する問題で、神奈川県や全国の平均を上回りましたが、言葉の特徴や使い方に関する問題で、神奈川県や全国の平均を少し下回りました。
- ⇒全体的に神奈川県や全国の平均とほぼ同じという結果になりました。平均を大きく上回った「読むこと」の指導をさらに強化するとともに、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の記述による解答の正答率が上がるよう、授業の中で、文章を書くことを重点的に指導していきます。

## 【算数】

- 本校の平均正答率は、全国・神奈川県の前年より上回る結果となりました。正答数別分布グラフにて解析すると、平均正答率を上回って正答することができた児童は全体の41%程度となりました。
- 「数と計算」の正答率は、全国・神奈川の平均を上回りました。特に( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る課題では全国・神奈川県の前年より大きく上回りました。
  - 「図形」の正答率は全国・神奈川県の前年より上回っていました。特に台形や正方形、正三角形の意味や性質を理解しているかを確認する課題では、全校・神奈川県の前年より大きく上回る結果となりましたが、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する課題では、全国・神奈川県の前年を少し下回りました。
  - 「データの活用」「変化と関係」の正答率は、いずれも全国・神奈川県の前年を上回りました。特に百分率で表された割合について考える課題では、平均を大きく上回っていました。
- ⇒「知識・技能」「思考・判断・表現」それぞれの観点で、全国・神奈川県の前年を上回ることができました。平均正答率を下回った、三角形の面積の大きさの判断については、プリントや復習問題を通して、もう一度学習内容が定着できるよう指導していきます。

## 《児童質問紙から》

児童質問紙とは、児童の関心や意欲など、国語及び算数に関する調査を補完して学力を把握する内容や、児童の授業での取組方や学習方法など、国語及び算数に関する調査では把握が困難な内容について、質問紙を用いることで把握することができます。また、児童の学習環境や家庭における生活状況等の生活の諸側面、教育条件、教育施策など、国語及び算数に関する調査結果との結びつきが強いと考えられる内容について、それらを把握するとともにその相関関係などを分析することができます。以下がその分析結果です。

- 人が困っているときに進んで助ける。
  - 人の役に立つ人間になりたいと思う。
  - 学校に行くのは楽しい。
  - 家で、自分で計画を立てて勉強をする。
  - 地域の行事に参加している。
  - 地域や社会をよくするために何かをしたい。
  - 地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい。
  - 学習の中でICT機器を使うことのよさ。
- などの項目で、全国・神奈川県の前年と比べて肯定的な回答が多くありました。

一方で、

- 自分には、よいところがある。
  - 将来の夢や目標をもっている。
- については「当てはまらない」と思っている児童が全国・神奈川県の前年を上回りました。
- ⇒学習の中で、自己肯定感がもてるように学習の展開を工夫していくと同時に、キャリア教育を進めていけるように、本物との出会いや体験できる場を多く設けていきます。

- 土曜日や日曜日など、学校が休みの日に学習をする。
  - 授業時間以外に読書をしている時間。
  - 学校図書室や地域の図書館の活用。
  - 新聞を読む。
- については「あまりしていない」に回答する児童が全国・神奈川県の前年を上回りました。

⇒総合的な学習の時間や社会科などの教科で、課題を自分事として捉えられる材を取り上げ、子どもたち自身が社会事象に興味・関心をもち、「もっと知りたい」「もっと調べてみたい」と思える学習展開を工夫していきます。